

甦った縄文犬!?

今年の4月、国立科学博物館の日本館がリニューアルオープン、その展示の一コマです。
(2007年)

—— 国立科学博物館の絵はがきより ——

縄文人の家族 - 母親が土器を作り上げたところに、父親が大きなスズキをモリで突いてきた。数千年前の縄文時代中期、日本列島には山と海の多様な幸を利用する暮らしが広がっていた。人々は、小柄だが筋肉質の体で、彫りの深い濃い顔をしていた。イヌも小柄だが、イノシシ狩りで活躍した。



縄文犬レプリカの正面-撮影五味



隣には弥生犬のレプリカ-撮影五味

従来のレプリカは、とかく造形が主体で、日本犬らしい鋭さと機敏・軽快さを感じさせなかったが、今回の科博レプリカはそうした弱点が全て改善されていて、姿型的には科学的であるばかりでなく芸術性まで漂わせていた。まるで我が会の犬が展示されているかのような錯覚さえ覚えた。五味 記(2007.04)